

Fuji Champion Race Series Round 5

2021.12.11 SAT - 12 SUN

2021年の富士チャンピオンレースシリーズ第5戦は、新型コロナウイルス感染症対策を実施する中で、予定通りに12月11日～12日開催された。

天候に恵まれ、コースレコードが更新されるクラスも数多く、絶好のレース日和となった。

開催クラスは、インタープロトシリーズ 第4大会、KYOJO Cup 第4戦、FCR-VITA 第5戦、N1400/N1000/Audi A1 Fun Cup 第3戦、MINI CHALLENGE JAPAN, 2021 ROUND5、以上5つのレースが最終戦となり、TOYOTA GAZOO Racing Yaris CupはGrand Final戦が開催され、全6シリーズ、全10戦が開催された。



FCR-VITA Round 5



2021年富士チャンピオンレースも最終戦を迎え、この日最初のレースはFCR-Vita第5戦。土曜日朝の予選でトップタイムを出し、ポールポジションスタートを決めたのは#37 KeePer Vita 翁長実希 2'00.105。フロントローには#8 東京IRC Vivoニルズ01 イシカワヨシオの2'00.207。3番手には#34 YGF Drago VITA 下野璃央 2'00.258、4番手には#12 ビーンズスポーツVITA 大野俊哉 2'00.409。5番手にポイントリーダーの#47 KeePer VITA 徳升広平 2'00.412というグリッド順になった。決勝では、スタート直後からトップを守る#37翁長、その後ろでは激しい2位争いが続き、オープニングラップは#37 翁長、#47徳升、#34下野の順に戻ってきた。その後も毎周回2番手争いが繰り広げられたが、

後半の7周目になると2番手の#47徳升が抜け出て、その後ろで3番手争いが熾烈になってきた。その際にトップ2台は徐々に後続との差を広めていく展開となる。9周目には3番手に#12大野があがり、10週の決勝は#37翁長、#47徳升、#12大野の順でチェッカーを受けた。みごとなポールトゥウィン飾った#37翁長はレース後「今日は自分自身ベストの走りをして集中して走ることが出来ました。FCR-Vitaでポールも優勝も初めてで、とても嬉しいです。昨日までメカニックという話し合いをしながら、マシンセッティングをやってきたのですが、良い方向に行きました。明日のKYOJOもこの調子で頑張ります」と語った。



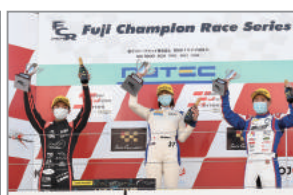
Winner



2nd



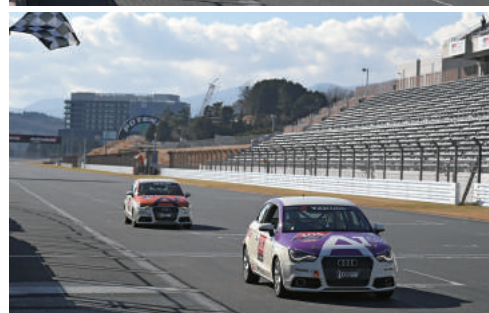
3rd



RESULT リザルト FCR-VITA

Rank No.	Name
1	37 翁長 実希
2	47 徳升 広平
3	12 大野 俊哉
4	18 辻本 始温
5	86 猪爪 杏奈
6	2 イノウエ ケイイチ

N1400/N1000
Round 3
Audi A1 Fun Cup
Round 4



今シーズンは全3戦のこのカテゴリーも今回が最終戦。グリッドを決める予選でトップタイムを出したのは、初お披露目になるが今回は章典外になる#19 Beetle Fun Cup 近藤翼2'04.968。フォルムも可愛らしくて今後が楽しみなマシンだ。N1400のトップタイムをたたき出したのは、ポイントリーダーの#21 DLμNUTECスターレット 大竹直2'09.003。僅差でチャンピオン争いをしている#72 アレスQSグローバルμ82 高橋ノボルは6番手からのスタートとなった。Audi A1はすでにチャンピオンが決まっている#105 東京IRC Audi A1 イシカワヨシオが2'13.445でトップからのスタート。N1000クラスは#25 岐阜高等技術専門学校ヴィッツ 赤堀康裕が2'19.396のクラストップからのスタートとなっている。決勝ではオープニングラップでトップを奪ったのは#26 がんばれなげっちゃんEP82 斎藤和美。3周目には#3 フジツボミッドランドEP82 山田大輔が2番手に浮上。#72 高橋もこのトップ集団に着いていく。トップ4台はすべてコンマ差の団子状態で周回を重ね、残り2周でバトルはさらに白熱し、9周目には0.2秒差で#21大竹が先にコントロールライン

を通過したものの、最後に先にチェッカーを受けたのは#72高橋だった。Audi A1は#105イシカワと#107並木産業Audi A1 Fun Cup並木重和の一騎打ち。3番手以下は離れたものの、#105イシカワに#107並木がぴったりと付きチャンスを狙うが何度か並びかけるも最後まで#105イシカワがトップを守りそのまま優勝した。N1000は予選トップの#赤堀が2位以下に差を広げてそのまま優勝。2位には久しぶりに復活してきた#32 ツルミモエスキーヴィッツ 垣生彬が残り2周で順位を上げた。レース後の各クラスドライバーのコメント N1400 #72高橋「皆様上手いので様子を伺いつつ走っていました。大竹さんのプレッシャーはすごかったです」Audi A1 #105 イシカワ「FCR-Vita直後のこのレース、Vitaで若者に揉まれた後にダブルエントリーで大変でした」N1000 #25 赤堀「予選タイムが皆近かったんで、間にAudiが入ってくれないかな？と思っていました。それは上手くいきましたが、一人旅で走っているようで、それはそれですごいプレッシャーでした」と語った。



RESULT リザルト N1400

Rank No.	Name
1	72 高橋 ノボル
2	21 大竹 直
3	3 山田 大輔
4	26 斎藤 和美
5	84 竹田 幸一郎
6	57 小山 正博



RESULT リザルト N1000

Rank No.	Name
1	25 赤堀 康裕
2	32 垣生 彬
3	27 中村 直樹
4	54 半田 健一郎



RESULT リザルト Audi A1 Fun Cup

Rank No.	Name
1	105 イシカワヨシオ
2	107 並木 重和
3	101 斎藤 浩徳
4	113 河村 翔太
5	111 鳥羽 剛史
6	109 酒井 正和

MINI CHALLENGE JAPAN.2021 ROUND5



第9戦

富士、鈴鹿、SUGO、岡山と転戦してシリーズ戦が開催されてきたMINI CHALLENGEも今回の富士が最終戦となり第9・10戦が行われた。JCWクラスとCooper Sクラスの2クラス混走で戦われ、第9戦のグリッドを決める土曜日の予選でトップタイムを出したのは、JCWクラス#2 EX-FORM MINI F56JCW 後藤比東至 1'56.118。2番手は#17 BRP★MINI F56JCW 鈴木健自 1'57.357。Cooper Sクラスのトップは総合6番手で#70 エルファイネストF56CPS制動屋 増田直人 2'07.453。2番手が#18 BRP★MINI岡山F56CPS奥村浩一 2'08.198となった。第9戦決勝ではスタート直後の混戦でJCWクラスは#2後藤がトップを守り、2番手に上ってきたのは#3 IDI 平田空調RH坂井F56JCW 平田雅士。Cooper Sクラスは#70 増田がトップを守り、その後ろについたのは、クラス4番手スタートの#161

F-MODE IE CPS森岡史雄だったが、4周目にマシントラブルでスロー走行。クラス2番手スタートだった#18奥村がポジションを取り戻す。その後、上位陣は後続に徐々に差を広げ、#2 後藤がポールトゥウィンを決めた。Cooper Sクラスではこのクラス唯一JCWクラスに周回遅れにされずに12周走り切った#70 増田が優勝した。レース後各クラス優勝ドライバーのコメント。総合・JCW #2後藤「スタートはあまり得意ではなくて、実は今日もちっとやらかしちゃいましたが、後半は安定して走ることが出来ました。明日も連勝できるように頑張ります」JCPS#70 増田「こう見えて大変でした。最後の方はチームとの無線のやり取りでもお互いにダブルチェッカーか???とも思っちゃったし。そうでなくて良かったです。明日も連勝目指して頑張ります」と語った。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト JCW

Rank	No.	Name
1	2	後藤 比東至
2	9	平田 雅士
3	17	鈴木 建自
4	57	阿部 良太
5	3	面野 一



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト CPS

Rank	No.	Name
1	70	増田 直人
2	18	奥村 浩一
3	56	石井 一輝
4	4	谷岡 力
5	77	古田 聡
6	337	三浦 康司

第10戦

日曜日に行われた今シーズンの最終戦となる第10戦。ポールからのスタートは#17 BRP★MINI F56JCW 鈴木健自、フロントローに並ぶのは#9 IDI平田空調RH坂井F56CPW 平田雅士、ポイントリーダーで昨日の第9戦優勝#2 EX-FORM MINI F56JCW 後藤比東至は3番手からのスタートとなっている。Cooper Sクラスはここまでのポイントリーダー #77 ガレージビットハウスF56S 古田聡。隣には昨日の第9戦優勝、#70 エルファイネストF56CPS制動屋 増田直人が並ぶ。決勝ではスタート直後から激しいトップ争い。オープニングラップをトップで戻って来たのは#9 平田、その背後では#2 後藤と#17 鈴木が激しい2番手争い。Cooper Sは#70古田がトップを守っている。3周目には

#9平田がマシントラブルで戦線離脱。3台のトップ争いから#17鈴木と#2後藤の激しいトップ争いが続き11周目に#2後藤がトップに立つも最後までコンマ差の激しい戦いは続き、12週の決勝は0.2秒差で#2後藤が先にチェッカーを受けた。CPSクラスは後続をどんどん引き離れた#77 古田が優勝。レース後の各クラス優勝ドライバーはJCW#2後藤「どうしてもファステストと優勝をしてシリーズチャンピオンになりたいと思っていました。前半は平田さんとのバトル、後半は鈴木さん、何度も心折れそうになりましたが、勝ててとても嬉しいです」CPS#77古田「運と展開に助けられました。1～2周目に上手く離れた。あの混走に混ざってしまっていたら勝てなかったかも」と語った。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト JCW

Rank	No.	Name
1	2	後藤 比東至
2	17	鈴木 建自
3	3	面野 一



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト CPS

Rank	No.	Name
1	77	古田 聡
2	70	増田 直人
3	4	谷岡 力
4	56	石井 一輝
5	18	奥村 浩一
6	337	三浦 康司

TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup 2021 Grand Final



2021年のYaris Cupを締めくくるGrand Finalは予備予選が免除となるシード枠16台、一般エントリー 54台の合計70台のエントリーとなった。決勝レースに進出することが出来る台数は54台のため、シード枠分を除いた38枠を争う予備予選を予選前に行い、惜しくも16台が予備予選落ちとなり、その後決勝グリッドを決定する予選がシード枠を含めた54台で行われた。この激戦の中、ポールポジションに決まったのは#523 GB CAMP Yaris 大森和也2'14.664のレコード更新で堂々のトップ。並ぶのは東日本チャンピオンの#61 PAK☆ SPEC7 Yaris 松本康平2'14.674。3番手に#919 ウィニング☆制動屋☆NUTEC Yaris 森川なるお2'14.985。4番手に#930 ユニオンプロジェクトYaris 咲川めり 2'15.112。上位7台がコースレコード更新。CVTクラスは#13 ジオンTaxGR東京Yaris CVT 近藤希望 2'17.232が総合45番手で、クラストップからのスタートとなった。決勝ではスタート直後の1コーナーで#61 松本がトップを奪う。しかし、その後も上位集団の激しいトップ争いが続き、5周目のダンロップコーナーで#523 大森がトップを奪い返す。上位集団は各コーナーで激しい順位争いを繰り広げ最終ラップでは#523大森、#919 森川 #61松本の順になり、10週の決勝は#523 大森がポールトゥウィンを決めた。CVTクラスは2番手スタートの#36 N千葉アニスボムYaris CVT 飯田裕が優勝した。レース後の各クラス優勝ドライバーのコメント #523大森「チャンスはずっと狙っていました。あのヘアピンでは行けるかも!」と思い、少し間を空けて上手く入ることが出来ました。皆クリーンなバトルで、大変だったけれど良いレースができました」#36飯田「良いメンバーたちと戦えて楽しいレースでした。来年も続ける予定です」と語った。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト Yaris Cup

Rank No.	Name
1	523 大森 和也
2	919 森川 なるお
3	61 松本 康平
4	206 木村 建登
5	930 咲川 めり
6	438 森口 優樹



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト Yaris Cup/CVT

Rank No.	Name
1	36 飯田 裕
2	13 近藤 希望
3	48 荒川 美恵子
4	53 金山 和弘
5	518 河島 裕樹
6	852 長澤 久御子

KYOJO CUP Round 4



第4戦となるこのレースが今シーズン最終戦のKYOJO CUP。ここまで、#18 ORC ARUGOS VITA辻本始温がポイントリーダーとなっているが、この最終戦はポイントが1.5倍となるので、シリーズチャンピオン争いは最後まで目が離せない。予選でトップタイムを出したのはその#18辻本、1'59.922で唯一2分を切ってきた。フロントローには#36 KNC VITA 荻原友美が2'00.173で並ぶ。3番手には#34 YGF Drago VITA 下野璃央2'00.365といったグリッド順。決勝ではオープニングラップから各所でバトルとなり1周を終えての順位は#18 辻本、#34 下野、#86 猪爪の順、その後ろ4番手には8番グリッドからジャンプアップしてきた#37 KeePer VITA 翁長実希が追いついてきている。2周目の1コーナーで#34下野がトップに立ち、その間にもファステストラップを更新しながら#37翁長が猛ブッシュ。6周目には2番手にまで上がってくる。7周目の1コーナーでついに#34下野を捉え、トップにたった。その後も徐々に後続を引き離し、10週の決勝は#37翁長、#34下野、#18辻本の順でチェッカーとなった。前日のFCR-VITAに続いての優勝となった#37翁長はレース後「前に出た瞬間にいつも通りの自分の走りをして、最後まで走り切ろうと思いました。ポイントの事とかは全く考えていなくて、自分のやるべきことをきちんとやっていれば、そのようなことは後からついてくると考えていました。2年連続シリーズ2位で周りからも期待されているのがわかるので、来シーズンこそはチャンピオンを取りたいです」と語った。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト KYOJO CUP

Rank No.	Name
1	37 翁長 実希
2	34 下野 璃央
3	18 辻本 始温
4	86 猪爪 杏奈
5	36 荻原 友美
6	38 永井 歩夢

Inter Proto Series Round 7-8 Gentleman Class



今シーズンの最終戦となるインタープロト ジェントルマンクラス第7戦のグリッドを決める予選が土曜日の朝行われ、トップタイムはIP Eクラス#44 NAVAL 山口達雄の1'46.275。2番手には#37 キーパー号 大蔵峰樹 1'46.674。IP Gクラスでは#96 岡山トヨペットK-tunes 末長一範の1'47.823がトップ。SUPRAは#38 P.MU RACING SUPRA ト部 治久の1'48.482。CCS-Rでは#15 ASP Racing YOSHIが1'53.693でトップからのスタートとなった。第7戦決勝ではスタート直後から激しいトップ争いが終始続き、なんとか逃げ切った#44 山口が見事にポールトゥウィンを決める。SUPRAは#38ト部、CCS-R#15YOSHIが優勝した。レース後の各クラス優勝ドライバーのコメントIP G#44山口「大変でした！疲れました！最初1コーナーで寺川さんに抜かされた時にはやられたと思いましたが、マシン自体は後半になるほど良くなってきましたのでスーパーカーで抜かせましたがすぐ後ろに今橋さんも来ていて気が抜けなかったです」IP E #96末長「良いペースで走れました。前のEクラスにもついて行かれたし。明日も頑張ります」SUPRA#38ト部「今日はプロクラス石浦君の予選中にトラブルが出たのですが走っているうちに治りました」CCS-R YOSHI「練習の成果が出ました！楽しく走りましたが暑かったです」と語った。

日曜日の第8戦決勝は第7戦の結果でグリッドが決まっている。やはりスタート直後からトップ集団の激しい争いでオープニングラップをトップで戻って来たのは2番手スタートの#19 はGARDEN

CLINIC RT 今橋彩佳。背後には4番手スタートの#32 NETZ NOVEL ME 永井秀貴が迫ってくる。その後ろには#55 人馬一体ドライビングアカデミー寺川和紘。11周目には#55 寺川が2番手に上がり、12週の決勝は上位3台コンマ差で#19今橋、#55寺川、#32永井の順でチェッカーとなった。各クラス優勝ドライバーのコメントIP E#19今橋「今日は絶対に勝つ！という気持ちでいました。トップに立つと気持ち的に弱くなってしまうので、後半にと狙っていましたが前半にチャンスがあってトップに立てたのでそこからは後ろを気にせずに自分のペースを守ると自分に言い聞かせながら走っていました」IP G#96末長「いつも2日目になると調子が悪いのですが、ようやく2日目の結果が残せてほっとしています」SUPRA#38ト部「無事に走り切りました！」SSC-R YOSHI「今日は荒さんからいろいろアドバイスをいただいたのを思い出しながら走り切りました」と語った。

Round 7



RESULT リザルト IPS-E		
Rank	No.	Name
1	44	山口 達雄
2	19	今橋 彩佳
3	8	木村 武史
4	32	永井 秀貴
5	55	寺川 和紘
6	3	FLYING RAT



RESULT リザルト IPS-G		
Rank	No.	Name
1	96	末長 一範
2	7	勝又 隆二
3	16	渡邊 久和
4	88	八木 常治



RESULT リザルト CCS-R		
Rank	No.	Name
1	15	YOSHI
2	10	木村 真弓
3	5	天野 雅仁
4	87	正田 亮



RESULT リザルト SUPRA		
Rank	No.	Name
1	38	ト部 治久
2	45	横井 亮一郎

Round 8



RESULT リザルト IPS-E		
Rank	No.	Name
1	19	今橋 彩佳
2	55	寺川 和紘
3	32	永井 秀貴
4	8	木村 武史
5	44	山口 達雄
6	3	FLYING RAT



RESULT リザルト IPS-G		
Rank	No.	Name
1	96	末長 一範
2	7	勝又 隆二
3	16	渡邊 久和
4	88	八木 常治



RESULT リザルト CCS-R		
Rank	No.	Name
1	15	YOSHI
2	10	木村 真弓
3	5	天野 雅仁
4	87	正田 亮



RESULT リザルト SUPRA		
Rank	No.	Name
1	38	ト部 治久
2	45	横井 亮一郎

Inter Proto Series
ROUND 7-8
Professional Class



石浦!!と掲げてのぞみました。すぐ後ろにずーっとつけられて、ひたすら頭を使ってブロックしていました。純粋なワンメイクレースで、すごく楽しかったです」
CCS-R #87松井「金曜日にアクシデントがあり、短時間でチームが直してくれました。完璧ではないけれど、しっかりと走れるマシンに間に合わせてくれたので、自分のやるべきはしっかりやろうと思って走っていました」と語った。

こちら最終戦を迎えたIPS プロフェッショナルクラス。ここまでのIPSポイントリーダーは#37 キーパー号 福住仁嶺の52ポイントだが、残り2戦で逆転のチャンスは、久しぶりに参加の#8松田次生以外の全てのドライバーに残っており、毎回のレース同様僅差となっている。予選でトップタイムを出し、第7戦のポールポジションに決まったのは、ランキング2位の#NAVAL 山下健太1'44.387。フロントローには#37福住が1'44.391で並ぶ。SUPRAでは#45 NTP SUPRA 片岡龍也が1'45.856のコースレコード更新でトップ。CCS-Rは#87 NTP CCS-R 松井孝充が1'49.590でトップからのスタートとなった。決勝はやはりスタートからクラスごとの激しい争いが続き、各コーナーでバトルが繰り広げられる。5周目には#44山下と#37福住が何度も並びかけ#37福住が前にするが、#44山下もコンマ差で追従したものの、9週の決勝は#37 福住が前でチェッカーを受けた。2位に#44山下、3位に#3 INGING MOTORSPORT 阪口晴南となった。CCS-Rはこちらもコンマ差で#45片岡が逃げ切った。CCS-Rは#87 松井が優勝。続く第8戦ではやはり激しいトップ争いが続き、4周目には#44山下が前に出るが7周目にトップ4台のバトルの中で#3 阪口が隙をついて前に出てそのまま優勝した。各クラス優勝ドライバーのコメント IPS#3 阪口「2人(福住・山下)のペースがすごくて、今回は勝負にならないかな?とも思っていた決勝でしたが、タイミングよく抜かさせてもらえました。チームの体制が前回から代わって、短い時間で良いマシンを作り上げてくれたチームの皆様に感謝しています」SUPRA #45片岡「打倒

Round 7

IPS



Winner



2nd



3rd

RESULT リザルト IPS

Rank No.	Name
1	37 福住 仁嶺
2	44 山下 健太
3	3 阪口 晴南
4	96 中山 雄一
5	19 藤波 清斗
6	32 坪井 翔

CCS-R



Winner



2nd



3rd

RESULT リザルト CCS-R

Rank No.	Name
1	87 松井 孝允
2	5 山内 英輝
3	10 阪口 良平
4	15 荒 聖治

SUPRA



Winner

2nd

RESULT リザルト SUPRA

Rank No.	Name
1	45 片岡 龍也
2	38 石浦 宏明

Round 8

IPS



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト IPS

Rank No.	Name
1	3 阪口 晴南
2	37 福住 仁嶺
3	44 山下 健太
4	96 中山 雄一
5	32 坪井 翔
6	19 藤波 清斗

CCS-R



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト CCS-R

Rank No.	Name
1	87 松井 孝允
2	5 山内 英輝
3	10 阪口 良平

SUPRA



Winner

2nd



RESULT リザルト SUPRA

Rank No.	Name
1	45 片岡 龍也
2	38 石浦 宏明